

農業技術センター普及指導部作物関係情報

タイトル：収穫後の水田ほ場管理について

発信日：平成27年11月13日

収穫後の水田管理が翌年の高品質米の安定生産に結びつきます。次のことについて、この時期に対策を行いましょ。

イネ縞葉枯病対策について

イネ縞葉枯病はヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病です。

罹病したひこばえ(図1)は、翌年の伝染源になります。

〈対策〉

収穫後にヒメトビウンカが生息しているひこばえ(図1)を早急に耕起しましょ。ヒメトビウンカの越冬場所となる畦畔雑草の除草を行い、個体数を減らしましょ。



図1 イネ縞葉枯病に罹病したひこばえ

スクミリンゴガイ対策について

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)(図2)の発生している地域については、次の対策を行いましょ。

〈対策〉

- ① 1月中旬～2月上旬のロータリー耕は浅めで、回転を速くして貝を破碎し寒気にさらして死滅させます。
- ② 越冬場所となる用水路の泥上げを行います。



図2 スクミリンゴガイ

雑草対策について

クログワイ(図3)とオモダカ(図4)が発生し、十分に防除できなかった水田では塊茎で越冬し翌年も発生します。

〈対策〉

1月中旬～2月上旬に耕起することで塊茎を乾燥し、凍結させて死滅させます。



図3 クログワイ



図4 オモダカ

土作りについて

〈生わらの処理〉

水田に稲わらを刻んですき込む場合、生わらの分解を促進するために、石灰窒素 40～60kg/10a を施用し、早めに土と混用します。

〈堆肥等の施用〉

水田に堆肥を施用する場合の基準は表 1 のとおりですが、耕起を行った後に土壤診断を行い、診断結果に基づいて堆肥や基肥を施用しましょう。

施用時期は秋から冬にかけて行い、土中で分解を促進させます。ただし、湿田では水稻の根に障害を及ぼすガスが発生する恐れがあるため堆肥の投入を行わないようにしましょう。

表 1 堆肥の投入量

	投入量 (t/10a)			
	牛ふん堆肥	豚・鶏ふん堆肥	乾燥牛ふん	稲わら堆肥
一般水田	0.5～1	0.5	0.5	1

注 堆肥化してない鶏ふんと豚ふんは肥料成分が高く、
水稻の生育が不安定になりやすいので使用を避ける。

連絡先

農業技術センター普及指導部作物加工課
平塚市上吉沢 1 6 1 7
TEL : 0463-58-0333 内線381～384
FAX : 0463-58-4254